

1 単 元 豊かな表現活動を目指して一動画作品の制作を通してー

2 指導計画（7時間完了）

- (1) 見やすく，分かりやすい動画について考える・・・・・・・・・・1時間
- (2) 撮影した動画を編集してまとめる・・・・・・・・・・1時間
- (3) 編集した動画の，見にくい所，分かりにくい所を見つけて，編集上の改善策を話し合う
・・・・・・・・・・2時間（本時 2／2）
- (4) 見やすく，分かりやすい動画作品をつくる・・・・・・・・・・1時間
- (5) クラス発表会を行う・・・・・・・・・・1時間
- (6) 修正を加えて作品を完成する・・・・・・・・・・1時間

3 本時の指導

(1) 目 標

- 編集した動画の問題点（コンセプトに合っていない所）を改善するために，どのような内容のテロップを挿入すべきかを考え，具体的に書くことができる。
- テロップを挿入する時に気を付けるポイントを指摘することができる。

(2) 情報教育に沿ったねらい

- 自分が伝えたい内容が効果的に伝わるには，どのような表現にすればよいかを考えることができる。

(3) 準 備

教師：プロジェクター，電子黒板，教材提示装置

児童：学習プリント，コンピュータ9台，

(4) 指導過程

時間配分	学 習 活 動	活動への支援と留意点	評価の観点と方法
37分 (3分)	1 問題点を改善するためのテロップの内容を考え，具体的に書く。 (1) 前時に明らかになった各班の問題点を確認する。	○ 班ごとに，話し合う問題点を前時までに決めておく。 ○ 各班の問題点をフラッシュボードで黒板に掲示し，全員で共通理解できるようにする。 ○ コンセプトに合っていないことが問題点であることを，しっかりと伝える。	○ 問題点を改善するために，どのような内容のテロップを挿入すべきかを考え，具体的に書くことができるか，発言の様子や学習プリントの記述からつかむ。

主発問

「自分たちの動画のコンセプトに合っていない問題点を改善するために，どのシーンにどのような内容のテロップを挿入すべきかを考えましょう。」

(7分)	(2) 問題点を改善するためのテロップの内容を考え、ワークシートに具体的に書く。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 班に1台ずつパソコンを配布し、実際に自分たちの動画を見ながら活動できるようにする。 ○ 班のコンセプトに合うように、テロップの内容を考えることを伝える。 	
(10分)	(3) 班で話し合いをし、班の考えをワークシートにまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「どこに、どのような内容の、テロップを挿入するのか」を具体的に考えるよう伝える。 ○ 各自でまとめたワークシートをもとに話し合い活動を進め、班としての考えをまとめることを伝える。 ○ 早く考え終わった班には、さらに良い言葉や、他のシーンについても考えるように伝える。 ★ うまく考えることができない班には、普段見ているテレビを参考に考えることを伝える。 	
(17分)	(4) 班でまとめたテロップの内容を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ ワークシートを実物投影機とプロジェクターで大きく投影し、説明しながら発表できるようにする。 	
5分	2 内容を補うためにテロップを挿入する時の技能的なポイントを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○ ここからは、伝えたい内容をきちんと伝え、コンセプトに近づけるために、編集上気を付けることを扱うことを明確にする。 ○ クイズ形式の動画を見せ、テロップを挿入する時の技能的なポイントについて考えることができるようにする。 ○ コンセプトに近づけるという観点から、必要なテロップと不要なテロップについて考えさせる。 ○ 電子黒板を使い実際にいろいろな文字を画面上に書き、挿入する時のポイントを視覚的に理解しやすいようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ テロップを挿入する時のポイントを理解できているかを発言の様子からつかむ。
3分	3 本時のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ テロップの挿入だけでなく、ナレーションや、音量や明るさ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 編集をする時には、コンセプト

		<p>の調整などのその他の方法でも、コンセプトに合うように編集していくことが大切であることを伝える。</p> <p>○ 次の時間からは、一人一作品をつくっていくことを伝える。</p>	<p>トに合うように行っていくことが大切であるという意識が高まっているかを発言の様子や学習の様子からつかむ。</p>
--	--	---	--

4 実践の様子

(1) 問題点を改善するためのテロップの内容を考え、具体的に書く。班ごとに、コンピュータを1台ずつ用意し、自分たちが前時までに編集した動画を実際に見ながら、テロップの内容を考える活動を行った。班全員で画面を見ながら「ちょっと、止めて。このシーンなら、こっちの内容の方が良くない？」などと話し合うことができた。子どもたちは、パソコンを操作しながらの話し合い活動に夢中で意欲的に活動することができた。



【画面を見て話し合う子どもたち】

(2) 班でまとめたテロップの内容を発表する時は、教材提示装置とプロジェクターを使い班でまとめたワークシートを拡大表示した。そうすることで、自分たちの考えを全員に分かりやすく伝えることができた。また、聞く側にとって分かりやすい発表であったため、集中して聞くことができた。



【ワークシートをもとに発表する子ども】

(3) 内容を補うためにテロップを挿入する時の技能的なポイントを考える。技能的なポイントについて考える場面では、電子黒板を使い、実際に画面に文字を書きこみながら、ポイントをまとめていった。子どもたちは、画面を見ながら「背景が白だから、文字は黒がいいと思う」「顔に被らないように、もっと下に文字を入れた方がいい」など、問題を指摘しながら、すぐに解決をすることができた。



【電子黒板を使った説明の場面】

5 成果と課題

- 動画を見ながらの話し合い活動ができたため、場面に合ったテロップの内容をしっかりと考えることができた。
- 実際のワークシートを拡大表示して発表したことで、分かりやすくおもしろい発表をすることができた。
- 電子黒板で実際に文字を書きこみながらポイントをまとめたため、短時間で理解を深めることができた。
- 教室でコンピュータを使ったことで、コンピュータ室では難しい、班での話し合い活動がスムーズに進んだ。
- 配線やパソコンの準備に手間と時間がかかった。常時設置できる環境があると良いと感じた。